



～学校と地域をつなぐ教育広報誌～



ガク☆チキ第2号は、狛江の「先生特集」です！子どもたちにとって身近な先生ですが、今回は、いつもの先生の姿から更に一步踏み込んで、先生の1日や先生の凄い特技など、知られざる一面にも迫ります！また、狛江の「教育」について、教育長とPTA連合会会長による“真剣対談”をお届けします。

ガク☆チキは、狛江市教育委員会のホームページからご覧になれます。



こま え せん せい だい しゅう ぎょう
狛江の先生大集合！

狛江市教育委員会
ホームページ

リニューアル！

より見やすく、
使いやすくなります。



狛江市教育委員会

検索

スマートフォンからも
アクセスできます▶



ガク☆チキ 第2号 紙面
ガイド

- 2, 3面 密着 先生の1日
～近藤朋子先生の場合
- 4, 5面 先生の凄ワザ！
～隠れた特技を紹介します
- 6面 狛江の『教育』について考える
～教育長・PTA連合会会長対談

密着 先生の1日

近藤朋子先生の場合

いつも元気いっぱいの先生! だけど、授業が終わった後は何を
しているの?そんな疑問に答えるため、先生の1日に密着!!



密着先生プロフィール

近藤朋子 (こんどうともこ) 主任教諭は、狛江市立狛江第三小学校5年1組の担任。
趣味は、旅行・アウトドア (キャンプ・音楽・映画鑑賞)。
家族構成は、夫・子2人 (小学5年男子・幼稚園年長男子) の30代。
先生を目指したきっかけは、中学1年生の時の恩師との出会い。好きな言葉は「一期一会」。人との出会いを大切に、1日の半分を共に過ごしている児童達が、毎日笑顔で楽しくすごせるよう日々努力を重ねている。

スタート

起床～お弁当作り～出勤

「おはよう!」お母さんの朝は早い。身支度をし、朝食作り。それと平行して、幼稚園に通う次男のお弁当作り。朝から、パワー全快! 6:30には、「いってきまーす!」



next

授業開始～帰りの会

8:45 授業開始。児童に負けないパワーで、児童が下校する時間まで、一気に駆け抜けます。いつ水分をとっているの?と疑問に思うほど。



2時間目と3時間目の間にある「中休み」。児童と校庭で大なわ跳び。



学級便り「キセキ☆」を帰りの会で読みます。6時間授業の下校時間は15:30頃です。

給食もあっという間に食べ、連絡帳のチェックなど、大忙しの先生。

取材にご協力いただいた、5年1組のみなさん。



next

学校に到着～授業準備

ここからは、先生の顔。早めに出勤し、授業の準備・テストの丸付けなど、やることは盛りだくさん。



next

児童下校後

児童が下校した後は、掃除の仕上げや、日課の黒板メッセージ書き、会議などがあります。



翌朝、登校した児童が読むように、黒板に愛情あふれるメッセージを書きます。



毎週火曜日に行われる校内の「運営委員会」。学校運営について、さまざま議論。他の曜日には、「職員会議」や「学年会」などの会議があります。

next

職員朝礼～教室で朝の会



8:15になったら、職員室で朝礼。連絡事項など、テキパキ進みます。この間、児童は教室で読書タイムです。8:30には、教室で朝の会が始まります。

next

勤務終了～買い物～お迎え



仕事を終えて、電車で家路につきます。途中、スーパーでお買い物。その後、幼稚園で次男をお迎えです。



他の日には、こんなことをやっています！

社会科教育連盟

小学校社会科の実践的な研究を行っている民間教育団体で、月1回土曜日に月例会を開催。メンバーは、主に関東近県の小学校から大学の教育関係者など。この日は、東中野にて開催。



next

帰宅～夕食



「ただいま！」
帰宅した後も、一息つくまもなく、夕食の準備。子ども達も積極的にお手伝い。とってもおいしそう！
「いただきまーす！」



狛江市立学校リーダー育成セミナー

学校運営の中核を担う教員を対象に実施している学校マネジメント講座。狛江市役所会議室などで年8回受講。



日韓教育交流会

韓国から約40人の教育関係者が来日し、狛江市立小中学校の先生と互いの教育についてディスカッション等を行いました。1月21日、緑野小学校にて。



休日は家族と！

家族と思いっきり遊んでリフレッシュ！

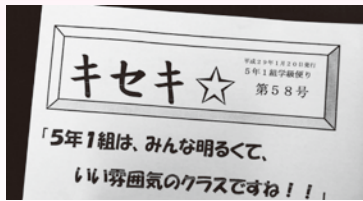


next

学級便り作成など～就寝



家事をすませ、子ども達を寝かせた後は、学級便りの作成などをします。

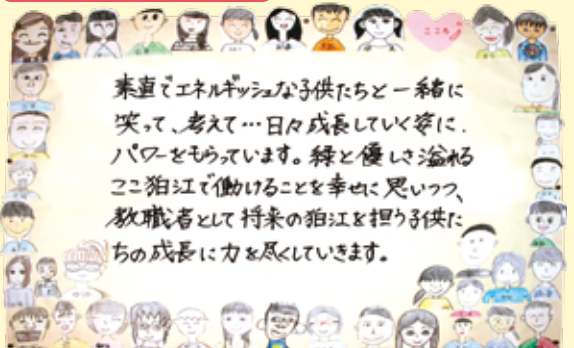


週2回を目安に発行している学級便り「キセキ☆」。今まで歩んできた「軌跡」と、これからの「奇跡」をかけ、クラスみんなの成長を願う先生の想いが込められています。翌日の帰りの会で児童に配付します。



お風呂で疲れを癒し、布団に入ります。先生、お疲れ様でした！「おやすみなさい！」

先生から読者へメッセージ



先生の スゴ 凄ワザ!



ねもと てつや
根本 哲也
(和泉小学校)

せ かい い ち ダブルダッチ世界一

一和泉小学校の根本哲也先生にお話を伺います。よろしくお願いします。(根本先生、以下N) よろしくお願ひします。



一いつから競技を始めたんですか?
(N) 大学入学のときに、ダブルダッチのサークル「乱縄」を見学に行って、そこで「カッコいい」と思い、ひとめぼれで入部したのがはじめてでした。

一大学からって結構最近なんですかね!
(N) そうです。高校まではサッカーをやっていた、大学でも続けるつもりでしたが、見学に行ったダブルダッチがかっこよすぎてそっちに入部しました(笑)



一競技の魅力は何ですか?
(N) 体操のような凄いアクロパティックな動きを、さらに縄の中でやるというところが難しいところですが、魅力的なところでもあります! はじめは跳べませんでしたが、徐々に跳べるようになってきてのめりこんでいきました!

一ちなみに競技人口はどれくらいいるんですか?
(N) 以前は少なかったのですが、今は日本全国に5千人くらいで、現在も増えています! 狛江市でも狛江第二中学校にダブルダッチ部があって、世界大会で活躍しています。

世界大会出場

一先生は世界大会に行かれたことがあると聞いたんですが、どんな大会だったんですか?
(N) 日本の学生大会があって、全国で東西南北のブロックに分かれて150チームくらいで予選を行います。そこで勝ち上がると全国大会に進んで、上位3チームが世界大会に進めます。世界大会はアメリカのニューヨークで行われました。

一150チーム中3チーム!? 狭き門ですね! そこで世界大会に進められたことは、かなりの凄ワザをお持ちなのでは?
(N) 実は、僕が出場したのは「スピード」という種目でして、2分間でどれだけ跳べるかという種目なんです…。もうひとつ「フュージョ

ン」というパフォーマンスを競う種目もあります。フュージョンは様々な技を出す競技です。

一そうなんですかね。2分間でどれくらい跳んだんですか?
(N) この種目では、左足が地面をつくごとに1回とカウントされるんです。2分間に片足でだいたい400カウントくらい跳びました。その大会では優勝しました!

一2分で400回! そんなに飛ぶんですね!! それでも十分凄ワザですよ!
(N) ありがとうございます(照)



現在の活動からこれから

一現在もダブルダッチは続けてるんですか?
(N) はい、月に一回活動しています。

一じゃあまた世界大会を目指してるんですね!
(N) そうですね。でも今はダブルダッチがメジャーな種目になることを目指しています! 大会のスタッフとして協力したり、二中の生徒を指導したりする等、様々な活動を行っています。

一そうなんですかね。ではいまの「夢」を聞かせてもらえますか?
(N) 今の「夢」はダブルダッチをやったことがある人が増えて、ゆくゆくはオリンピック種目になることを目指しています。

一オリンピック種目…カッコいいですね! では、最後にダブルダッチをしている子どもたちへのメッセージをお願いします。
(N) 普段の生活から親や自分の周りの人たちへの「感謝」をいつも忘れないで欲しいですね。たとえば、ダブルダッチの大会に出るにしても家族と一緒に跳ぶ仲間、大会を支える裏方の人等、たくさんの人に支えてもらってはじめて自分が出ることが出来ます。僕たちはいつも多くの人に協力や支えてもらって生きているので、子どもたちにはそういった「感謝」の気持ちを常に忘れないで欲しいです!

一「感謝」の気持ちは大切ですよ! それでは、根本先生お忙しい中ありがとうございました!
(N) ありがとうございました!



Youtube「ダブルダッチBUD」 検索

ウクレレ先生、ギネスを持つ。



ひぐちとよたか
樋口豊隆

(伯江第一中学校校長)

—伯江第一中学校の樋口校長先生にお話を伺います。樋口先生よろしく
お願いいたします。
(樋口先生、以下H) よろしくをお願いいたします。

—まずは、樋口先生の凄ワザを教えてください。
(H) 凄ワザなどというものではないですが…(笑) 私は2012年の7
月28日に横浜の赤レンガ倉庫で、ウクレレを2,134名で一齐に
演奏したという2,134分の1のギネス記録を持っています。

—ギネス記録ですか!? 十分凄いですよ!
(H) 当時はスウェーデンのとある町の1,547名が記録だったのですが、
その記録を超えるチャレンジをするという情報を得たので私も
甥っ子と参加しようと思いました。やはりギネスですから、チェッ
クが厳重です。イベントに参加する人をカメラで一人ひとり確認
して、さらに参加者がウクレレを弾いているか、列ごとにチェッ
クしていくんですよ。本当に緊張しました。演奏開始まで2時間
くらい待たされました(笑) 7月ですからもう暑くて(汗)

—ギネス記録をお持ちの校長はなかなかない
んじゃないですか?
(H) そうかもしれません(笑) こちらがその
ときのギネス記録証明書です。これを手
に入れるにも一苦労ありまして。まず、
当日本場に現場にいたのかの証拠写真を
提出して、さらにギネスで撮った写真の
中に本当に私が写っているかもチェッ
クしてようやく発行されました。このギネ
ス記録は、みんなの力が集まって達成で
きたことに価値があります。



—やっぱりギネスはチェックが厳重になっているんですね(驚) 今でも
ウクレレはされてるんですか?
(H) もちろん。以前はイベントで演奏を見る側でしたけど、あるとき、
甥っ子たちと思いついて出ようよって話し合っ、今では演奏す
るチャレンジをしています。伯江市でも駅前ライブなどにへたな
りに参加させてもらってます。

—なんか私も始めたくなくてきちゃいました(笑) 先生は貴重なウクレレをお持ちだと伺っ
たのですが…
(H) 世の中に20台しかないものなんです。インターネットで買ったものとは音色の深
さが違います。やっぱり、ウクレレの音色は穏やかな気持ちにさせてくれます。ウ
クレレの音を聞くと癒されますし、そういった曲が多いですから。

—最後に今後どのようなことをやっていきたいかお聞かせください。
(H) 昨年フラの集まりの人たちからウクレレを生演奏してくれないかという依頼があり
ましてお引き受けしたんです。そうしたらフラの人たちがものすごく喜んでくれた
んです。自分の存在がウクレレを通じて、誰かの役に立つならうれしいなと思います。

—今後の樋口先生の活躍を待ちんでいます。
今日は、お忙しい中ありがとうございました。
(H) ありがとうございます。ALOHA!



—ウクレレを始めるきっかけはなんだったんですか?
(H) もともとはギターをやっていました。僕が中学生のころはギターを弾けると女の子
たちにもてましたから(笑)。教育委員会に異動して、仕事も忙しくてもう音楽はや
らなくなったんです。ギターも学校においてきてしまったし。あるとき、自分の存在
について考えるようになりましてね、自分には何が出来るだろう、何をすればいい
んだろうって。ちょうど3.11も重なって自分も何かしなくちゃいけない、でも何を
すればいいかわからなかったんです。そんなときに、以前音楽をやったことを知っ
ている甥っ子たちにすすめられて購入したのがきっかけで
す。音楽で自分も人も笑顔になれたらって思いました。



—それは、どのくらい前のことだったんですか?
(H) はじめたのが6,7年くらい前ですから。でも弾ける
ようになるまでは、そんなに時間はかからないです。
弦を押さえるところを覚えれば指一本でイントロく
らいは弾けるので、30分くらいで大丈夫です。実際
に色々ところに演奏しに行って、いろんな人がウ
クレレを始めるんですけど、みんなすぐに弾けるよ
うになるんですよ。ある小学生の子は、私にウ
クレレを聴かせに来てくれました。

しょうどう たっじん 書道の達人



—伯江第五小学校の中村先生にお話を伺います。中
村先生よろしくをお願いいたします。
(中村先生、以下N) よろしくをお願いいたします。

—先生の凄ワザは書道と伺っていますが、いつごろ
から始められたんですか?
(N) 小学校1年生から、近所の教室に通い始めた
のがきっかけです。単純に近所の仲のいい友
人が何人もその教室に通っていたこともあり、
自分も通い始めました。

—なるほど、今は書道の活動は行っているんですか?
(N) 活動とは言えないかもしれませんが、学校の入
学式などの行事の看板の文字を書いています。

—看板の文字を書くなんて凄いですね! 私生活では
書かれないんですか?

(N) 最近は忙しくて書いてません…、でも大学ま
ではやっていました。

—先ほど小学校1年生から教室に通い始めたとい
うことですが、始めは習字からということですか?
(N) 始めは習字教室に通っていて中学まではそう
でした。高校からは芸術科の授業で書道を選
んだんです。そこで書道の担当の先生が、書
道専攻の大学を卒業していて、私もそこへの
入学を勧められて入学したんです。そこから
書道を本格的に始めました。授業の一環で実
際に自分の作品を作成したりしていました。

—途中で辞めてしまうことはなかったんですか?
(N) そうですね。ここまでできたら辞められないっ
ていうのもあるんですけど、単純に書道が好き
なんだと思います。書を書いてると落ち着きます。



なかむらまさひで
中村匡秀

(伯江第五小学校)

—書道が生活の一部のような感じになっているんですね(笑)
(N) そうですね(笑) 最近はプライベートで筆を持つことはないですけど、や
ぱりふと書いたりすると楽しいですし、あと、最近は何賀状の宛名を全
て自分で書いたりしました。子ども達に送った年賀状は、年明けに話題
になってました。

—こちらのイメージだと、書道という映画にあったように半紙に字を書い
ていくようなものなのですが、そのイメージどおりですか?
(N) 私がやっているのはそのようなイメージとは違います(笑) 私は静かな
空間で小さめの半紙に書く方です。しかも、好きになったのは大学時代
からです。平安時代に使われていたかな文字
ってあるじゃないですか。それが好きで、昔の古
書とかのかな文字をまねて書く、臨書って言
うんですけど、それをやったりしてました。今
は、そんなにやる機会もないんですけど。



—今後、書道とおしてどのようなことをやっていきたいかお聞かせください。
(N) 小学校から長く続けていたこともありまして、できれば仕事に活かして
いきたいです。今は1年生の担任なので書道の授業はないんですけど、
他学年の先生に具体的なアドバイスみたいなこともできるので、でも一
番は、これからは肩の力を抜いてやっていきたいです。

—最後に、子ども達に一言メッセージをお願いします。
(N) 一言ですか(笑) うーん、一言言うるとすれば、「本当に字は大切だよ」
ということです。書道って、字から人柄が出ると思うん
です。それって昔から言われて
いるんですけど、字ひとつ
で印象も変わるし、人柄もつ
かってしまうので、しっかり
した字を書ける大人になっ
てほしいなと思います。



狛江の『教育』 について考える

ありま もりいち
有馬 守一
狛江市教育委員会教育長
(以下教)



わたなべ よしなり
渡邊 成就
狛江市立学校PTA連合会会長
(以下P)

つながり支え合うことで、大人も子どもも、自然に笑っていられるような狛江であり続けたい

さっそくですが、PTA会長からご覧になった狛江市で誇れる特色は？

P：結婚して子どもが生まれ狛江は何となく住みやすいと感じました。都心に近く利便性が良く、閑静でコンパクトなまちづくり。子どもが出来てからも車の交通も少なく育てやすい。トンボ池公園等、緑が多く季節折々の子どもに対して見せられる場所が自転車で行ける距離にあり、成長した子どもに話を聞いても遊び場に困らない。周りの人も同じ意見でした。

地域と学校の関わりという点では緑野小学校はいかがでしょうか。

P：地域密着を考えており、地域との関わりを重視している。関わりは目配りからだと思えます。多くの方と関わりがあることで、それだけ多くの方たちと子どもを見守ることができると思えます。地域の方と交流するために、緑野小ではもちつきに招いたりもしました。

保護者や地域の協力によって教育を充実させているような取り組みは？

教：私が勤務していた昭和50年代は、学校間はもちろん、保護者と地域を含めた一体感が他の自治体と比べてすごく高いイメージがあり、それは今も変わらないように思えます。現在も、地域の人材、教材を生かした学習活動が重視されていて、例えば、一小は郷土の文化、日本の文化を地域の人から学んだり、学区の農家に出かけて行って農作業をしている人から直接学んだりする取り組みをしますし、三中では避難所になる体育館で中学生と地域の人と一緒に避難所訓練をするなどの取り組みも行なっています。

これからは地域の人々の、学校への参加や支援を通じての地域づくりが活発に展開されていくのではないのでしょうか。文部科学省では、「地域学校協働本部」というような名称で方向性を打ち出していますが、狛江市でもチャレンジを始めたモデル校もありますし、校長先生方も意識されているんじゃないかなと思いますね。

地域のつながりの中から、狛江市の子どもたちにはどのように育ててほしいですか？

P：まず大人が育っていった欲しいですね。何かあったとき

有馬守一教育長は、現在教育長として5年目。現場の経験が14年、教育行政の経験が15年。校長経験が8年。先生としての最初の赴任先は狛江。



助けてもらうのは周りの人からだと思えますし、助けないといけないときもあると思えます。知っている人だと助けられても、知らない人を助けられるかという助けられないような気もします。だから地域の方々の顔を自分から知ったり、知ってもらったりということは、大切だと思います。それを子どもたちが見ることで学ぶ。親が実践することで、子どもがそれを見て学んでいく部分があると思えます。狛江の子どもと言わず、全ての子どもに対してなんですけど、自分が子どもだった時を考えると親の行動って大事だと思います。教：狛江の子どもたちは素直で温かい良さをもっています。これは親とか地域の人たちの力で育まれたものであると思えます。その良さを自覚して、これから大事にしてほしいと思えます。

学校教育の過去と現在の違いはあるのでしょうか。

教：昔は知識や技能をいかにして伝えていくかが中心でした。今後は活用力とか探求力などが大事になっていきます。新しい学習指導要領でも「アクティブラーニング」の考え方を盛り込んだ今以上に「主体的で対話的、深い認識」に至るような学び方が必要とされてきます。

P：その中で、人との関わりの中で責任を持ちながら関わることを学んで欲しいと思えます。また、学校にはいやいや行くのではなく、楽しんで欲しいと思えます。その姿勢は親が示していく部分もあると思えます。

急速な社会の変化に対し子どもたちがどのように生きていってほしいですか。

P：狛江の中で暮らし高校生になっても、それまでに関わった地域の方、直接的でなくても目を配ってくれていた方々と、イベントに参加するなど地域に関わることで、顔を覚えてもらったりするわけです。顔がわかるとあいさつができるようになったり、困っていたら助けてもらったりすることができます。そう

いう意味で、笑って過ごし、自然体で横につながっていくことで、希薄ではない人と人の関係を築いてほしいと思えます。

教：そうですね。私もそう思います。安心して学び成長できる環境を、教師も親も、もちろん子どもも望んでいます。子育てについての悩みや課題を、教師と親が共に理解し、学校と家庭の両面からどのように支援していけるのかを考えていけば連携がしやすいと思えます。子どもが苦しんでいることを乗り越えるために、どのようにサポートできるのかを考えていく環境が学校に広がれば、子どもたちが笑顔で過ごせる環境が出来ていくのではないかなと思います。

どんなときでも保護者がつながりあえるような地域性を大切にしていきたいということでしょうか。

教：障がいを抱えた子どもや家族がいる、不登校中だったり、不登校になりかけた子どもがいる、あるいは引きこもりの経験がある家族がいるなどの状況は、ほとんどの家庭に当てはまるのではないのでしょうか。これは隠すべきことではない。それを自然に話題に出来て解決、改善に向けた話し合いができればどれだけ風通しがよくなるか。これが保護者会等で親同士が自然に語り合えると、子どもたちが生きやすくなる。地域、保護者の中で、そういう関係をどう作っていくかが子どもたちの将来にとってものすごく影響すると思えます。

P：この話はPTAにつながっていきますね。PTAや様々な委員会は知らないお母さんたちと知り合うきっかけになる。接点のなかったお母さん同士が知り合うことで、情報交換をしている様子が見受けられますね。そういう意味ではせっかくできたきっかけなので、みなさんやりましょう!!って思います。他の地域の方から狛江のPTAはかなりやりやすいとも聞きますし。

教：つながり支え合う狛江にあって、大人も子どもも教員、PTA、地域に関わらず、自然に笑っていられるような狛江であり続けたいですね。

ありがとうございました。

渡邊成就PTA連合会会長は、緑野小学校PTA会長も兼務されており今年でPTA会長6年目。学級委員会の経験を含めると、7年間学校に携わる。2児の父。